



補足事項

- [*1] の Ghostscript 実行においては、Ghostscript 9.15 以上では eps2write デバイスが、それ未満では epswrite が用いられる。
- [*1] の Ghostscript 実行における -r オプションの値は、画質優先モードでは 20016 固定、速度優先モードでは解像度レベル設定に従う。
- [*1] の Ghostscript 実行においては、epswrite / eps2write どちらのデバイスであっても、出力される EPS の BoundingBox 値が誤っている場合がある。そこで、eps(2)write で生成された EPS に対しては、Ghostscript の bbox デバイスで取得される BoundingBox 値によって常に上書きするようにしている。
- [*2] の経路は Ghostscript 9.15 以上の環境で「テキスト形式 EPS 出力」を選んだときのみ実行される。Ghostscript 9.15 未満の場合は epswrite デバイスで得られた EPS をそのまま最終出力とする。
- 余白は原則として bp 単位が用いられるが、設定で px 単位を選んでいて、かつビットマップ画像出力の場合は、Quartz API によるビットマップ化実行時に px 単位の余白が付与される。